



ID: 1360

科目名	会計論 I 【26年度生用】			コード			
英語表記	Accounting I						
担当教員名	山下 秀輔			年度	平成26年度		
基準年次	2年次	開講期	前期		単位数		
授業形態	講義	授業形式			履修形態		
授業概要							
社会一般において営まれる経済活動は、すべて金額の数値によって把握されるが、この講義ではその数値をまとめる財務諸表の成り立ちと仕組みを学ぶ。これにより、将来企業にてビジネスに従事しようとする諸君が、財務会計の基礎知識を習得することを目的とする。							
到達目標							
企業の経営状態や財務状態を表す財務諸表に用いられた用語や数値の意味が理解できる。経営学や経済学、金融論、マーケティングを学ぶ際に使われる企業経営上の基礎的な専門用語が理解できる。							
授業計画							
第1回	会計論 I で学ぶもの	授業の進め方と、学び取る成果					
第2回	会計とは何か?	儲ける公式、企業のステークホルダー、財務諸表とは?					
第3回	簿記の基礎知識 1	簿記と会計の関係、複式簿記とは?					
第4回	" 2	貸借対照表と損益計算書の構成					
第5回	" 3	簿記の仕組みと実務					
第6回	" 4	決算実務					
第7回	わが国の企業会計制度	会計を取り巻く法律および企業会計原則					
第8回	企業会計原則	一般原則					
第9回	資産会計(その1)	資産の分類と評価					
第10回	" (その2)	資産の評価基準、減価償却、減損会計					
第11回	負債会計	流動負債・固定負債、負債性引当金					
第12回	資本会計	資本金、剰余金、利益処分との仕組み					
第13回	損益会計	5つの利益概念、損益会計の諸原則					
第14回	財務諸表(その1)	財務諸表について知る					
第15回	財務諸表(その2)	財務諸表の見方					
評価方法と基準			評価項目と割合(%)				
主に授業態度とレポート、期末試験にて評価する。会計の用語と仕組みを正しく理解することを求める。			出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
				20	20	60	
授業外学習			テキスト、教材				
復習を重点に、次の授業に臨んでもらいたい。			レジメおよび参考資料を必要に応じて配布する。				
参考書			受講生へのメッセージ				
「現代会計学」新井清光著 中央経済社刊 「ゼミナール現代会計入門」伊藤邦雄著 日本経済出版社刊			1年次で簿記論を履修することが望ましい。				
キーワード							
企業の損益は会計によってのみ計算できる……会計の知識はビジネスの常識である							